

さんぽ木だより

—— 友の会会員の皆さまと記念館を結ぶ会報誌 ——

vol. 35
2020 冬号



すずき出版発行「心のうたかれんだあ」(平成3年版)より 詩／坂村真民「蝶」 画／海野阿育

坂村家のアルバム

vol.5



大正4年1月(1915)玉名小学校入学を記念し撮影した家族写真
(右端が昂少年)

冬生まれに因み、冬号から父・真民の話に入っていくと思います。

明治42年1月6日、戸籍名^{たかし}昂は、父(子^{たねじ}司)と母(夕^{たね}子)の長男として生を受けました。この年は一白水星・酉年、そして冬生まれ、これら三つはその後の人生の大切なキーワードになります。紹介する詩は、「季節のうた」という一月から十二月までを詠んだ長い詩の中の二月、「冬の夜の母の話」です。写真は、昂少年が小学校入学を記念した家族写真(翌年もう一人弟が生まれ五人兄弟になります)ですが、実は、これ以前の昂の写真が無いのです。となたか、情報をお持ちではありませんか？一方、みそさざいは、体重が10gもない非常に小さな鳥です。

さて詩全体から、寒い冬の夜、お母さんが子供達にいろんな話を聞かせてくれる温かい家庭の様子が目に映ります。男の子を授かったという母親の喜びも秘められていますね。そして予言めいた鳥たちの言葉は、赤ちゃんが大きくなっただけと先の真民を暗示しているとは思いませんか。父は、「一番先にみそさざいがお祝いに飛んできた」というところが大好きで、私達によく話してくれたものです。

先程の三つのキーワードについて、真民はこれを「三つの所縁」という詩のなかで、

冬の夜の母の話（季節のうた二月より）

あんたのうぶごえをきいて
すぐに飛んできたのは
いつも庭のすみで遊んでいる
みそさざいだった
みそさざいはつましい鳥なので
裏の方からそっと入って
お祝いを言った
体は小さいが
声は大きいねと
ほめて行った
それから
いつもお参りをしていた
お寺の鳩たちがきた
鳩はきれいずきだから
おそくなったのだろう
坊ちゃんでしたね
大きくなったら
わたしたちの仲間に加わって
よい仕事をしてもらいましょようと
予言めいたことを言って帰った
そのつぎには
思いがけない鳥がきた



ミソサザイ

それは渡り鳥のつぐみだった
空を飛んでいると
可愛いこえがするので
降りてきたというのであった
つぐみは遠い国の神さまの話をして
きっと幸せを祈って下さるだろうと
ありがたいことをばを残して行った
酉年だったものだから
鳥たちが大よろこびして
つぎつぎにやってきては
祝福してくれたのであった

わたしの航路を大きく左右してきたと表現しています。そして、こう付け加えているのです。『人はその出生の由縁を知らねばならぬ。そしてそこから生かされて生きる、大きな恩と不思議とを感得しなければならぬ。』

しかし、これは人生における幾多の関門を経験した後の話です。生まれつき瘦せて小さく目だけ大きかったという幼い昂少年にとつて、みそさざいの小さく目立たず朝暗いうちから庭のすみっこで独り遊んでいる様子は、まるで自分自身の姿・仲間のような存在であり、腺病質で病気がちな少年にとつて冬は恐ろしい季節でしかなかったのです。

九十七年間という年月、一白水星の水とのつながりは信仰を深め、酉年の鳥とのつながりは詩心を広く豊かにし、冬生まれは試練修行に打ち勝つ厳しさとなり、人生の所縁を結んでゆく。生まれたとき、褒め言葉がなかったと言う「昂」にとつて、晩年の「真民」に至るまでの道筋は、遙か彼方です。

父の生き方・こつこつコツコツに習い、皆さん、一緒にゆつくり辿って行きましょう。

文／西澤真美子

真民さんは最後まで「真民さん」でした

きのした みちこ
木下 美知子さん (73歳)

「味十味」を営む香川出身の木下正文・美知子さん夫妻は、松山で店を開いて46年になる。真民さんとは、「うどん屋」「真民さん」と互いを呼び合う、あっさりとした、しかし味わい深い交友が続いた。多数の色紙や青芳人形で彩られた店内で美知子さんにお話をうかがった。



開店時に贈られた書の下で

◆うどんの出前

昭和49年に松山の中心部で店を開きました。親しくなった近所の人が真民ファンで、日曜日に真民さんの講話の会がその方のお宅で開かれると、うどんの出前をいつも頼まれたんです。

日曜日は店が忙しいので私は参加できませんでしたが、「皆がそれほど熱心になる真民さんはどんな人なんだろう」という好奇心もあって、その方が砥部のタンポポ堂に行くときは一緒に連れていってもらいました。とはいっても、私はお茶をすすりながら黙ってお話を聞くだけでしたが(笑)。

真民さんとのご縁はそうのように始まりました。当時、野菜を作っていたので、定休日には野菜や、季節になるとサクラやモモの花などを玄関先に届け、「真民さん、来たヨ」と声だけかけて失礼するんです。「おいしい野菜だ」と喜んでいただきました。



昭和63年建立の98番碑

◆98番碑の建立

昭和63年、「良い石が出た」と真民さんから声がかかったので、「念ずれば花ひらく」の詩碑を建てました。

当時は店の入口横に詩碑がありましたので、「念ずれば 花ひらく」と言いながら店に入ってくるサラリーマンも(笑)。当時も店内に真民さんの色紙や短冊を飾っていたので、「先生の教え子でした」というお客さんもいましたね。

平成16年に現在地に移転しました。陶製の看板は真民書、森元青芳作で、青芳さんには開店記念品も作ってもらいました。こちらに來てからは、真民さんはうどんを食べに寄ってくれたり、時には書を持ってきてくれました。

◆「真民さん」が似合う人柄

知り合ったころ、真民さんは「昭和の良寛さん」と言われてました。そのとおりで、まったく気取らない。そして、私にも分かりやすい言葉で話してくれる。「お経とか難しい言葉は知らん」と私が言えば、「知らんでええ、南無阿弥陀仏だけでええ」と言ってくれました。

真民さんは有名になっても、気さくな人柄は以前とちっとも変わりませんでした。「真民先生」と呼ぶ人もいますが、私たちにとってはいつまでも、親し

◆みやすい「真民さん」でした。

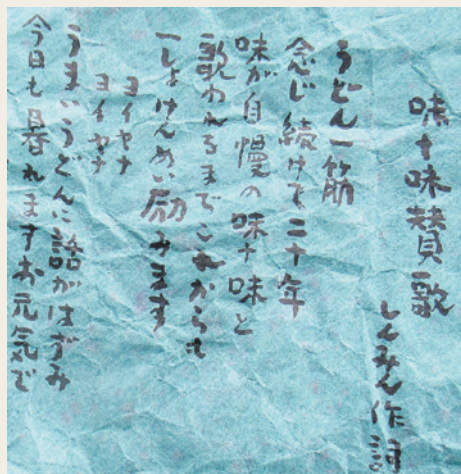
◆人生そのものの言葉

私が好きな詩は「二度とない人生だから」。夫はうどん一筋の生き方そのものの「二道を行く」。

誰一人知る人のいなかった松山で、お客さんに恵まれ、真民さんとも出会え、夫婦ともとてもいい人生を送らせてもらっています。



真民書・青芳作の陶製看板



開店20周年に贈られた賛歌。
この紙に青芳人形を包んで
お客さんへの記念品とした

「坂村真民のまなざし」

「坂村真民のまなざし」は、生きとし生けるものへの、やさしさと愛情あふれるまなざしです。しかし、自分自身を見つめるまなざしは、いつも厳しいまなざしだったと思います。そういう中で、晩年を迎え、自分の生き方がある程度固まってきた、80歳頃から「自分のまなざし」を考えるようになってきたのだと思います。

真民の詩に、「まなざし」という言葉が初めて出てくるのは、78歳の時に作った「まなざし」という詩です。これは、井上洋治神父の本を読む中で「イエスのまなざし」という言葉に出会ったのが大きく影響しています。遠藤周作と生涯の友であった井上洋治神父は、キリスト教を日本の風土と日本人の心に如何に根付かせるか、と言うことに苦心していました。そういう中で、「いつも人々から侮蔑のまなざしをうけながら、もっとも重い人生をとばとばと歩んでいた売春婦や癪病人に向けられているイエスのまなざしこそ、イエスの生涯を貫いている姿勢の表れであると思う」に至り、一遍上人の生き

方とキリストの生き方が同じ生き方であり、その「まなざし」も同じものであることに気づきます。この井上神父の考え方に、真民は深く共感し「まなざし」について考えるようになるのです。

現在開催中の企画展「坂村真民のまなざし」では、そういう「まなざし」を多角的に捉え、分かりやすく解説・展示しています。その中で、「坂村真民のまなざし」の「本当の優しさ」を強く感じた文章をご紹介します。それは、真民が教師をしていた吉田高校の卒業生・兵頭昭子さんが真民の想い出を書いたものです。

坂村先生の思い出

『先生は心から差別をされない方でした。苦勞して社会人となった兄が、何としても高校は卒業するべきだと学費を送って来ていた同級生はどの先生にも友人にも変つかかっていましたが、先生には心開き、神妙な天使で、点訳奉仕に力を入れました。私達は差別なく対応しているつもりでも同級生の感じ取る何かがあり、先生の隔て無きやさしさを感じていたも

のと思われます。彼女は生涯先生を心の支えに生きてゆきました。

私は暗い内から畑の手入れをして勤めに行く父や病弱の母、弟達を思い修学旅行は親にも友人にも車酔いが激しいからと行きませんでした。旅行の間、図書館で本を読んでいると先生が「やあ」と遠くに居ても声を掛けに来て下さり、その目は「全部わかっているよ」と語られており私の心に灯が点りました。

先生は、ご自分の詩を生徒に進めた事があります。私は後年詩人として有名になられる先生とは知らず国語乙の教師としてその暖かい人柄にひかれて集まっていたと思います。』

真民は、生徒と共に生き、生徒を一人の人間として愛し、その人生を励まし、共に生きることを一生懸命考えながら教師として勤め、詩を書き続けていました。そういう真民の「優しいまなざし」が心温まるエピソードとして書かれています。

また、真民詩の中でたくさん詠われている三人の娘たちへの「父親としての愛情あふれるまなざし」を、私が一番感じる詩をご紹介します。「幼き者へ」という詩です。この詩は、「全詩集第五巻」にだけ載せられている詩で、ほかの詩集には載っていません。吉田時代の最後の頃で

真民が46歳頃に書いた詩です。病で長く学校も休んでおり、自分はおそらくもう長くは生きられないだろうと思っていたのでしょう。3人の子供たちへの遺言のような詩になっています。病に伏していた真民にとつて、子供たちが明るく元気に育ってゆく姿を見ることは、一番の幸せな時間でしたが、その子供たちが大きくなるまで一緒に生きてゆけないという、父親の悲しい思いと優しさといとおしさが詰まった詩なのです。

文／西澤孝一

幼き者へ
わたしのようになあを
父として生まれ
父と呼んでくれた
三人の子よ
体の弱いわたしだから
いつまでも一緒に
生きてゆくことはできないだろう
甘しい時や
悲しい時があるなら
わたしの名を呼んでくれ
どんなに遠く外にいても心へきき
力になつてやろう
三人仲良く大きくなつてくれ
お母さんを大事にしなくていいんだよ

真民さんの ヒミツ

好きな映画

チャップリンの映画、
笠智衆が出演の映画、
ベンハー

日頃されていた服装

シャツとゆったりとしたズボン。
(天然素材(綿)、軽く柔らかい手触
りで明るい色)

好きな色

白色

口癖

忙しい!
忙しい!

好きな食べ物、飲み物

おまんじゅう、よもぎ餅
ハチミツ、根菜類、木の实
パンケーキ、桃、ハブ茶



好きな動物

鳥全般
(特に白鷺)、蝶



好きな詩人

八木重吉、
リルケ、
ゲーテ

日課にしていたこと

家の外回りの掃除、
ゴミ出し



好きな言葉

疑えば花ひらかず、
信心清浄なれば花ひらいて
仏を見たてまつる。

健康に気をつけていた事は?

体に良い食物を摂り、
足裏を揉む事。

好きな場所、
よく行っていた場所は?

川、海、お寺

テレビはみていましたか?

時々。日曜美術館をみていました。

詩を書く以外に
趣味はありましたか?

美術館を訪ねる事。
自然の中に身を置く事。

一番の心友

水上良介さん
(朝鮮師範学校の教え子)

好きな植物

花全般(特にタンポポ、朴の花)、
朴の木、樺の木



お酒は強かったですか?

強い。晩年は少量を
楽しく飲んでいました。



娘さんの真美子さんから
見た真民さんはどんな人?

純粹、誠実

嫌いな食べ物

なま物、揚げ物、
冷たい物、肉

坂村真民記念館を応援しています



ホテルクリオコート博多

〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街5-3 Tel 092-472-1111

経営理念

最大の会社より最良の会社
人さまに喜んで頂く仕事と
自分づくりをする



株式会社 宣翔物産

〒812-0857 福岡市博多区西月隈3-6-17 Tel 092-475-1151



『木は氣なり』

百年の木には百年の氣が宿り

千年の木には千年の氣が宿る

鳩寿四 真民詩

南木曾木材産業株式会社

〒399-5302 長野県木曾郡南木曾町吾妻1187 代表取締役 柴原 薫

TEL 0264-57-4000 FAX 0264-57-2006 <http://www.nagiso.co.jp> メール kao@nagiso.co.jp

砥部の地で、医療、看護、介護の三位一体を実現する砥部病院



To-be

介護付有料老人ホーム トゥービー

介護付有料老人ホーム
To-be

全78居室/20㎡~24㎡(1F&2F)

M To-Be

住宅型有料老人ホーム モンレーヴ砥部

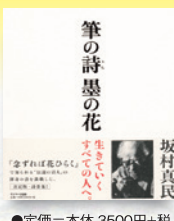
住宅型有料老人ホーム
モンレーヴ砥部

全18居室/40㎡~90㎡(3F)

伊予郡砥部町麻生51-1(砥部病院西隣) TEL.089-969-0085 砥部病院ケアサービス株式会社

サンマーク出版 坂村真民の本

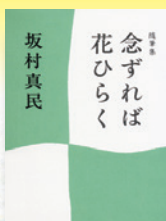
詩墨集
筆の詩墨の花



●定価=本体 3500円+税

坂村真民記念館
所蔵の作品を満載!

随筆集
念ずれば花ひらく



●定価=本体 1800円+税

初めての
随筆集を復刻!

念ずれば花ひらく



10万部突破の
超ロングセラー!

詩集
念ずれば花ひらく



詩集●定価=本体各1000円+税

サンマーク出版

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 2-16-11
TEL 03 (5272) 3166 FAX 03 (5272) 3167
<http://www.sunmark.co.jp>

いま届けたい、生き方の道しるべ

詩集 二度とない人生だから



詩集 宇宙のまなざし



致知出版社 坂村真民シリーズ



全424頁、
豪華
座右版

生涯1万篇以上といわれる
膨大な詩作の中から366の名詩を精選。
長年、真民詩に魅せられ人生を歩む道標としてきた
『致知』編集長が渾身の思いで編集に当たりました。
心が弱った時、悲しみに直面した時、
ぜひ本書を紐解いていただき、
心の糧となる詩に出逢っていただければと願っています。

坂村真民 一日一詩

坂村真民＝著／藤尾秀昭＝編
定価＝本体2,000円＋税
四六判上製

人生で口ずさみたくなる
言葉が見つかる



坂村真民 一日一言
坂村真民＝著
定価＝本体1,143円＋税
新書判

円覚寺派管長が選んだ
真民詩100選



坂村真民詩集百選
坂村真民＝著／横田南嶺＝選
定価＝本体1,300円＋税
新書判

真民氏が自らを励まし、
勇気づけるために綴った87篇の詩



坂村真民箴言詩集 天を仰いで
坂村真民＝著／西澤孝一＝編
定価＝本体1,300円＋税
四六判並製

月刊『致知』に掲載された
幻のインタビュー集



詩人の颯声を聴く
坂村真民＝著／藤尾秀昭＝聞き手
定価＝本体1,300円＋税
B6変型判上製

致知出版社

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前4-24-9
TEL.03-3796-2118 FAX.03-3796-2109

オンラインショップでも
ご購入できます！

致知オンラインで検索

坂村真民記念館友の会 会員募集中

坂村真民記念館友の
会は、会員の皆様と記念
館との交流を図り、記念館
を共に支え、育てていくこと
を目的とした会です。入会
された方には会報と、真民
グッズなどの記念品を贈呈
します。

パスポート会員 年会費2000円	特典 会員証で入館無料1人 ほか
一般会員 年会費5000円	特典 会員証で入館無料1人 ほか
特別会員 年会費10,000円	特典 会員証で入館無料2人 ほか
法人会員 年会費10,000円	特典 会員証で入館無料2人、 観覧券10枚贈呈 ほか

詳しくはホームページをご覧ください

坂村真民記念館 友の会

検索

〈編集後記〉このところ『共に生きる』とよく言われますが、人と人との繋がりを目指す場合が多いですね。けれど、最近の何時何処で何が起こるか予想出来ない自然災害、先の見えないコロナ禍など、私達は自然と、もっと拡げて宇宙との共生を求められているのではないのでしょうか。アレコレに“真民のまなざし”では？ 皆さん、記念館企画「坂村真民のまなざし」展と一緒に考えてみませんか。お待ち申します。(真美子)

タンポポだより vol.35 冬号

令和2年12月1日発行

発行元／坂村真民記念館友の会事務局

〒791-2132 伊予郡砥部町大南705 坂村真民記念館内

TEL089-969-3643 FAX089-969-3644

〔坂村真民記念館〕

開館時間／9～17時(入館は16時30分まで)

休館日／月曜(月曜が祝日の場合は翌日)、12月29日～1月1日

入館料／65歳以上300円、一般400円、高校生・大学生300円、
小・中学生200円 ※15人以上の団体は割引あり